

平成 29・30 年度 土木学会複合構造委員会 第 2 回幹事会議事録

日 時：平成 29 年 8 月 2 日（水）14:00～17:30

場 所：土木学会 C 会議室

出席者：西崎委員長，下村副委員長，溝江幹事長，大久保幹事，~~葛西幹事~~，川端幹事，北根幹事，斉藤(成)幹事，齋藤(隆)幹事，平幹事，中村幹事，仁平幹事，橋本幹事，広瀬幹事，牧幹事，~~松本幹事~~，滝本幹事，杉岡事務局

配布資料：

- 幹2-0 平成29・30年度複合構造委員会第2回幹事会議事次第
- 幹2-1 平成29・30年度土木学会複合構造委員会第1回幹事会議事録（案）
- 幹2-2 平成29・30年度土木学会第1回複合構造委員会議事録（案）
- 幹2-3-1 平成29年，30年度論文賞選考委員会の委員・選定委員の推薦について
- 幹2-3-2 （IC5）論文賞選考委員会規則
- 幹2-3-3 論文賞選考委員会委員経験者一覧
- 幹2-3-4 H29-30年度複合委員会幹事会名簿&業務分担
- 幹2-4-1 調査研究拡充支援金の配分について
- 幹2-4-2 調査研究拡充支援金の部門内での配分について
- 幹2-4-3 委員会別行事収支一覧
- 幹2-4-4 平成28年度決算における調査研究部門行事関係雑損失処理一覧
- 幹2-4-5 拡充支援金の使途の基本的な留意事項
- 幹2-4-6 情報発信数（行事参加者）の基本的考え方（平成29年度）
- 幹2-4-7 平成29年度 複合構造委員会 予算案
- 幹2-4-8 複合構造委員会 予算執行状況
- 幹2-5 平成29年度年次学術講演会（共通セッション）
- 幹2-6-1 平成29年度全国大会研究討論会時間割（案）
- 幹2-6-2 平成29年度全国大会研究討論会 当日配布冊子
- 幹2-7 土木学会複合構造委員会複合構造シンポジウム小委員会議事録（案）
- 幹2-8 土木学会論文集A1特集号（複合構造論文集）準備状況
- 幹2-9 複合構造委員会出版物販売状況
- 幹2-10-1 第1回橋梁技術の温故知新セミナー開催報告
- 幹2-10-2 第1回橋梁技術の温故知新セミナーに関する報告書
- 幹2-11-1 構造物の更新・改築技術に関する研究小委員会活動報告
- 幹2-11-2 「構造物の更新・改築 -プロセスの紐解き-」講習会開催のお知らせ
- 幹2-11-3 「構造物の更新・改築 -プロセスの紐解き-」講習会 参加者一覧
- 幹2-11-4 「構造物の更新・改築 -プロセスの紐解き-」講習会 行事計画書
- 幹2-12 複合構造委員会小委員会一覧
- 幹2-13 （欠番）
- 幹2-14 （欠番）
- 幹2-15-1 H106 FRPによる構造物の補修・補強指針作成小委員会
- 幹2-15-2 H106 FRPによる構造物の補修・補強指針作成小委員会スケジュール（案）
- 幹2-16 H150 各種ずれ止めの性能照査のための評価方法研究小委員会
- 幹2-17 H212複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会

- 幹2-18 (欠番)
幹2-19 H215複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会
幹2-20 H216複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
幹2-21 (欠番)
幹2-22 H218FRP複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会
幹2-23-1 土木学会 出版企画（平成30年度）の募集について
幹2-23-2 出版企画書
幹2-23-3 販売促進活動計画書
幹2-23-4 予算要求調書
幹2-23-5 出版企画書記入例
幹2-23-6 平成30年度出版企画 今後の手続き（スケジュール）
幹2-24 次回幹事会の会場
幹2-25 平成29・30年度複合構造委員会委員名簿
幹2-26-1 土木学会「見える化」データ行事報告のデータ提供のお願い
幹2-26-2 見える化2016

議事内容：

1. 委員長挨拶および自己紹介

西崎委員長より、幹事会開催にあたり挨拶があった。本格的な活動も始まり、全国大会や複合シンポジウムの開催などに向けて引き続きご協力をお願いしたい。

2. 第1回幹事会議事録案の確認（資料 幹2-1）

大久保幹事より、資料に沿って説明があり、以下を修正した上で承認することとした。

- ・ 4 小委員会やイベントになど→小委員会やイベントなど
- ・ 15 講演開→講演会
- ・ 16(11) H218複合構造→H218FRP複合構造

3. 第1回委員会議事録案の確認（資料 幹2-2）

溝江幹事長より、資料に沿って説明があり、以下を修正した上で親委員会に配信することとした。

- ・ (19)(H150) 古市幹事→古内委員

4. 平成29年、30年度複合構造委員会幹事会業務分担（資料 幹2-3）

溝江幹事長より、資料に沿って説明があった。

- ・ 平成29・30年度論文賞選考委員会の委員について委員長・副委員長・幹事長で協議した結果、滝本幹事に依頼することが提案され、幹事会で承認された。
- ・ 委員の基本的な作業内容について、査読者の選定であることが補足された。

5. 平成29年度委員会予算案と予算執行状況（資料 幹2-4）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・ 40万程度の拡充支援金が決定したため、例年よりも多くの支援金が配分され、合計104.3万円となり、若干余裕が出ている状況となった。
- ・ したがって、親委員会で提案した100万円の予算案通りに進めることが提案され、幹事会で承認された。
- ・ 昨年度の行事収支において、合成床版設計・施工指針（案）の地方講習会はいずれも黒字の

決算になっているが、これは委員が旅費を各自持出しにした上で地方開催等を行ったためである。前回示方書の場合にも委員会から旅費を出した場合もあるが、持出しの場合もあった。

- ・ 予算案については、メール審議のため親委員会に配信することが確認された。
- ・ 予備費に余裕があるため、小委員会を土木学会外での開催も可能であることが説明された。

6. 平成29年度全国大会・年次学術講演会（資料 幹2-5）

広瀬幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・ 内容は前回と同じであり、座長案なども既に依頼済みであることが報告された。

7. 平成29年度全国大会・研究討論会（資料 幹2-6）

溝江幹事長より、資料に沿って説明があった。

- ・ 鋼コンクリート複合構造物と水というタイトルで、各分野から話題提供がある。当日の配布資料（幹2-6-2）は100部準備し、会場においておく。
- ・ CORE技術研究所の西氏から、トリプルコンタクトの検討をしているWGがあり、その成果の一部が報告されることが報告された。
- ・ 話題提供いただく方には旅費等の支給があるため、後日請求があることが確認された。また旅費等は予備費から12万円程度支出されることが報告された。

8. 第12回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム（資料 幹2-7）

大久保幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・ 土木側の座長を設定すべきセッションが7セッションあり、座長を9/15までに建築学会に報告する予定である。
- ・ FRP関係の論文発表があり、FRPシンポには特別講演がないので、FRPに関して西崎委員長に依頼している。
- ・ 優秀講演賞に関して、セッション間レベルを合わせるための議論を進めている。今後2か月で検討する予定である。
- ・ 論文の推薦について、小委員会内で種々議論があったので、論文推薦WGで細かい点を詰めていく。
- ・ 従来は特集号の査読委員会で事前査読を行っていたため、事前査読者と論文集の外部査読者の一人は一致していた。しかし、今回はそのような形にならないため、事前査読をしても本査読がその査読委員に届くかは不明であり、結果的に本査読で不採択となる可能性もあることが説明された。
- ・ 事前査読で論文・報告として推薦されても、著者がどちらで投稿しても構わないことが確認された。
- ・ 11月9-10日がシンポジウムなので、土木学会誌10月号に掲載するためには8/10㍻切で開催案内を提出する必要があることが確認された。また、現場見学会は別途案内を出すことが確認された。
- ・ その他、以下の議論がなされた。

（質問）特集号と調整する必要はないか？

（回答）特集号と調整せず、推薦WGが推薦するのみである。

（質問）従来とやり方が変わることはないか？

（回答）基本的に一緒である。推薦のやり方を機械的にやるのか、WGで議論している。

（質問）シンポジウム後の修正期間に特集号に値するレベルに到達できるかどうかを査読者に伝え評価してもらう、というのはどういう意味か？

（回答）シンポジウム後の修正期間で、論文に手を加えて論文集に投稿してもらう。事前査読者

には、シンポジウム段階で論文集のレベルに到達していなくても、その期間で論文集に掲載に値するレベルに到達するかを判断してもらう。

9. 土木学会論文集A1特集号：複合構造（資料 幹2-8）

橋本幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・ 展望論文は横田先生に依頼する。なお、奇数年には元委員長の展望論文、偶年に招待論文、としているが、この限りではない。
- ・ 特集号のHPに推薦のプロセスについて記載があるので、文言等を変更することが確認された。
- ・ 校正（外注）は投稿数にも依存するので、来年度は費用負担が大きくなりそう。検討が必要であることが説明された。
- ・ 次年度以降、予備費を特集号にあてるつもりで予算立てしておいた方がよいという指摘があった。

10. 出版関係報告（資料 幹2-9）

大久保幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・ レポート9-12はまだ原価回収部数に到達していない状況である。

11. 第1回橋梁技術温故知新セミナー開催報告（資料 幹2-10）

広瀬幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・ 7/19に温故知新セミナーを開催し、早稲田大の依田先生に講演いただいた。出席者134名であり、有料としたため資料を配布したが、今後無料であれば資料不要かもしれない。
- ・ 今後の活動として、不定期ではあるが1回/年程度で進めることを考えている。歴代委員長に依頼する、などを考えている。
- ・ 他委員会との共催については講師の先生によって変わることを考えている。
- ・ 共催とした場合、各委員会で活動度は半々になるが、収益は全て段取りをした委員会に充てられるので、拡充支援金の観点からは段取り担当の委員会のメリットがあるという説明があった。なお、杉岡事務局が共催の場合の研究活動費・拡充支援金の考え方について確認することとなった。
- ・ 今後、写真撮影には土木学会のカメラマンなど、カメラを撮り慣れている方に依頼するのがよい。ただし、土木学会の広報の方が写真を撮る場合、公表すべきでない資料等が映り込む可能性があり、これらには留意する必要がある。

12. 構造物の更新・改築プロセスの紐解き－講習会開催報告（幹2-11）

滝本幹事より、資料に沿って説明があった

- ・ 7/21に講習会を開催した。事前申込み53名、当日申込み10名強で、71名の参加であり、歴代委員長にも出席いただいた。地方自治体から1名参加があった。なお、不参加の1名は事前申込み後の振込みがないため、所属機関に連絡する予定である。
- ・ 参加者が多く、結果的に13万円程度プラスになった。
- ・ 反省として、プログラムを配布しなかったため、発表者の担当時間がよくわからなかった。
- ・ 講習会では質疑の時間を設けなかったため、質問は杉岡事務局宛てとしていたが、その後質問はない。
- ・ 報告書100部のうち、70部は親委員会に配布し、残部はアンケートに協力いただいた29自治体に送付する。
- ・ 地方開催についても検討している。大阪の委員が多いので、大阪開催も考えているが、地方（熊本、岩手など）がよいかもという意見もある。時期や会費や聴講者のターゲット、動員

の可否や会場などを含めて今後調整する。

- ・ 関連して、報告書は出版委員会持ちなので、40名程度で黒字になるが、印刷費込で開催する場合には70名でも赤字になる可能性があるため、これらに留意する必要があるという指摘がなされた。

13. 小委員会報告審議事項（資料 幹2-12～幹2-22）

(1) H101 複合構造標準示方書小委員会

斉藤（成）幹事より説明がなされた。

- ・ 前回親委員会での説明以降、順調に活動中である。

(2) H103 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会

溝江幹事長より説明がなされた。

- ・ 現在、親委員会への意見照会が終了した。
- ・ 2名から意見があり、最新の標準示方書との関連が取れていないという指摘があった。大山先生が近日中に対応を決める予定である。
- ・ 今後、盆明けに出版委員会に提出、11月中旬に出版の予定となっている。したがって増刷のための誤字脱字を修正することがメインで、スケジュール的に根本的な修正はできないというコメントを受けている。
- ・ 次回改訂時の課題として、次回の教科書の増刷・改訂では、示方書の最新情報を適切に教科書に反映することを求めることが確認された。
- ・ 現在改訂中の教科書について、「はじめに」で2014年版の示方書を反映していない旨の文言を追加してもらうよう、委員会に伝えることが確認された。

(3) H106 FRPによる構造物の補修・補強指針作成小委員会（資料 幹2-15）

中村幹事より説明がなされた。

- ・ 現在2年目であり、7/26に2次原稿を確認した。
- ・ 補修・補強指針の作成スケジュールについて説明があり、承認された。
- ・ 指針の場合には親委員会までの照会があるが、外部への意見照会は出していない。ただし、後述の試験法の関係もあり、コンクリート委員会に照会した方がよい。
- ・ 地方開催について、セメント系材料の補修指針との共同開催も考えている。
- ・ 土木学会基準のE540番台の内容が古くなっているので、ISOとの対応が取れなくなっている。したがって、現状、FRPの試験法はコンクリート標準示方書の基準編に入っている。今回の指針は土木学会の基準の修正案を複合委員会からコンクリート委員会（またはコンクリート標準示方書基準編部会）に提案し、調整することが確認された。
- ・ 鋼材の補強などについてはコンクリート委員会とは異なるので、複合委員会が中心となって進めることが確認された。

(4) H150 各種ずれ止めの性能照査のための評価方法研究小委員会（資料 幹2-16）

平幹事より説明がなされた。

- ・ H150の成果報告の方法が提案され、本委員会はタスクフォース的委員会（示方書改訂のための課題解決）なので、委員会活動終了の手続きをどのようにすべきかが議論された。
- ・ これまで幹事会で説明され承認されている事項もあるが、改めて議論し、以下の通り承認された。

1. H150委員会は、報告書を作成してH101示方書委員会に提出する。H150委員会の活動は、示方書委員会が報告書を受理した時点で終了とする。受理できない場合、H150委員会の活

動延長などについて示方書委員会から幹事会に要請する。

2. H212耐荷メカニズム研究小委員会でのH150の特別講演は話題提供の位置づけとする。
3. 特集号でのH150の委員会報告は不要であり、データ等は別途学術論文として投稿する。
4. 親委員会での活動終了報告は実施する。スケジュールとして、第3回委員会で報告できると良い。

(5) H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会（資料 幹2-17）

牧幹事より説明がなされた。

- ・ 9/20に脱稿、12/21に報告会を予定しており、通読期間を8/30-9/6とすることで承認された。
- ・ 幹2-3-4に基づき、斎藤（隆）幹事が取りまとめ、北根幹事、仁平幹事が担当することで承認された。

(6) H214 維持管理を考慮した複合構造の防水・排水に関する調査研究小委員会

溝江幹事長より説明がなされた。

- ・ 沖縄で暴露試験を実施しており、2回/年の計測を予定している。
- ・ 暴露試験のためのレンタカー代の支出について、承認された。

(7) H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会
（資料 幹2-19）

川端幹事より説明がなされた。

- ・ 1期で成果報告は文書で取りまとめる予定としている。
- ・ 出版委員会を通さずにレポートを出すことを想定しており、PDFで配布することも考える。

(8) H216 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会（資料 幹2-20）

溝江幹事長より説明がなされた。

- ・ 前回幹事会から、委員構成の変更、幹事の増強を行った。

(9) H217 コンクリート充填鋼管部材の活用に関する調査研究小委員会

平幹事より説明がなされた。

- ・ 9/5に第2回の委員会を予定している。

(10) H218 複合構造の設計・維持管理に関する調査研究小委員会（資料 幹2-22）

橋本幹事より説明がなされた。

- ・ 前回幹事会（16名）から34名まで増員した。

14. 平成29年度出版企画の募集（資料 幹2-23）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・ メールで周知した通り、平成29年度出版企画の募集がある。対象としてはH106, H215, H216となっている。

15. 次回幹事会（資料 幹2-24）

溝江幹事長より、次回幹事会会場について、博多駅筑紫口側の川田工業九州営業所で開催されることが説明された。

16. 委員の交代（資料 幹2-25）

溝江幹事長より、資料に沿って委員の交代について説明がなされた。

- ・ 中村顧問，菅野委員の役職について修正した。
- ・ 阪神高速道路（株）の金治委員から西岡委員に変更があり，承認された。
- ・ 東レ（株）の近藤委員の転勤に伴い，松井委員に交代することが承認された。

17. 土木学会「見える化」データ行事報告に関する依頼について（資料 幹2-26）

溝江幹事長より、資料に沿って説明がなされた。

- ・ 土木学会の活動が外に見えるようにパンフレットなどを作製している。
- ・ パンフレットに掲載する話題の提供依頼があったが，趣旨に沿わない部分もあり，今年度は見送った。

18. その他

特になし。

以 上

（記録・文責：川端）